

# 国労水戸

国労水戸地方本部  
水戸市中央1-1-11  
ENYビル2F  
029-221-4008  
発行責任者 塚原良雄  
編集責任者 坂下 司

プリマハム労組茨城支部50周年

## 感謝と連帯の集い

### 労働者の権利を守り続けた

【分裂・壊滅攻撃からの成長】  
プリマハム労組は1965年に結成され、その間二つの大きな攻撃がかけられました。

一つは、1973年の組合分裂攻撃です。第二組合幹部と会社が一体となつて不当労働行為、不当差別（昇進・昇格・配転、暴力行為、懲戒処分がおこなわれ労働委員会、裁判闘争を闘って来ました。

仲間に支えられ 茨城支部・結成50周年  
**感謝と連帯の集い**  
フード連合 プリマハム労働組合茨城支部



プリマハム労組中島副委員長

1988年には

## 2015年度 年末手当 国労要求 3.5ヶ月

の壊滅攻撃です。第二組合が上部団体（セン

セン同盟）と一緒になつて組合が組合を潰す攻撃で、組合員宅まで押し掛けオルグ活動をして組合員の切り崩しを行ってきた。しかし、全国でも一人も第二組合に加盟する人はいなかった。

【徹底的なコスト削減策の中で】

プリマハム会社の従業員は、当初450名いたが現在は309名（社員58名、パートアルバイト144名、中国人実習生107名）となつている。さらには現在、新工場が建設中で今以上の機械化が導入され、人手が足りない状況が作られていくようだ。

そのような状況の中、年休の取得ができず、労災も多くなつている。職場では、「一分一秒この会社に居たくない」との声が多く聞かれるようになってきている。母

性保護の観点から要求し、やつと獲得した「生理休暇」も今は取得者がいない状況になっている。

【働くものの声に耳を傾け続けていく思想】

組合員が多くいた頃は、労働者の権利が守られていたが物言う労働者が少なくなつた現在、権利や主張が通りづらくなつてきているが、要求が通らない中にあるても「駄目なもの駄目」と言うべきことははっきり言い続けていかなければならない。働くものの声に耳を傾け会社と最後まで闘うことを強く訴えていたことからプリマハム労組の思想性が感じられました。

分裂から42年が経過し、茨城支部の組合員は9名（再雇用8名、定時社員1名）となつている。全国では、20名となつてしまいました。したが、会社と対等になれているのは諸先輩方が勝ち取った協定書や確認書があったからと言われています。その意味において、東日

本本部の労働協約の改定闘争の重要性が改めて感じ取れました。

最後になりますが、紙の弾丸と言われる「日刊紙・わかさぎ」は手書きに拘り温もりと働く側に寄り添う記事は労組員以外の多くの読者の支持を取ってきた。8月10日発行をもって、7618号となった。

### 井坂章さん 当選

10月18日公示、25日投票で、ひたちなか市議会議員選挙が行われました。

苦しい選挙戦でしたが、国労推薦の井坂章さんが4期目の当選を果たしました。協力していただいた組合員の皆様、ご苦労さまでした。

